



こーひーぶれいく

光1秒の距離の歩み

大嶋 建一

Ohshima Ken-ichi

日本人の平均寿命は男女共に80歳を超え、ますます高齢者が増加しています。筆者自身も63歳の定年後、同じ職場にて高大連携の特命教授として非常勤勤務を続けてきましたが、今年度末に職務を退くことになりました。現在、住み慣れた部屋で書類の整理を始めましたが、つい捨てるのをためらう資料が出てきまして、時々手を止めてしまいます。また、これからの余生をどのように過ごせばよいのかを考える時間が増えてきました。筆者の第一の趣味は屋外にて体を動かすことで、大学入学時から始めましたテニスのプレーをすることですが、80歳を過ぎても続けられるのが不安です。次の趣味の散歩は歩く速度を体調にあわせて対応できますが少し物足りませんので、長年にわたり筆者の移動手段となっている自転車に乗ることに注目しました。

小・中学校時代、家にあった自転車を弟たちと一緒に田舎道を乗り回していた記憶に戻ります。高校への通学は自宅近くの駅から赤城山南麓を走る私鉄に乗り、前橋市内の下車駅から高校まで自転車通学しました。仙台での大学・大学院時代には下宿から大学構内まで、真冬の雪の日にも自転車で通学しました。学位を取得後、職を得た名古屋でも、住居のアパートから職場までを8年半、自動車を全く使わずに自転車通勤でした。時には旅先でも乗車を楽しみました。最も印象に残る思い出は大沼国定公園ユースホステルに宿泊した際、レンタル自転車を転がしながら北海道駒ヶ岳の馬の背(900m)まで持ち上げた後に、一気に大沼めがけて、下山したことでした。振り返れば、夕日に照らされた秀峰駒ヶ岳の姿が見事で、いまでも脳裏に浮びます。これまでの自転車の走行距離を概算すると地球の円周(4万km)の2周ほどになります。

1986年4月、つくばに転勤しました。宿舎から大学までの距離約7kmの通勤手段はほとんど自転車で、時には、KEK・PFでの実験実施の際、自転車を利用しましたので、往復では20kmを超えました。その後、1994年7月には市南部の赤塚公園近くに自宅を持ちました。その通勤の距離はやはり約7kmでした。赤塚公園からいくつかの公園を通過しながら大学構内を結ぶ自転車走行可能な遊歩道があり、簡単に休憩が取れます。その上、遊歩道に植栽されたさまざまな樹木は四季それぞれの顔を見せてくれることは楽しみです。

走行中、研究学園都市の生活状況を観察することに興味を持ちました。30年程前には、週末になりますと乳母車を押して散策している若い夫婦連れを多く見かけましたが、最近では平日でもシニア世代の夫婦がのんびりと散歩している姿を多く見かけるのは都市として成熟期に入ったことに繋がります。更に、国際化に伴い、つくばセンタービル周辺では外国人研究員を、学内では外国人留学生を、見かける機会が急激に増えました。つくば滞在32年間では地球の円周に換算しますと4周ほどになりました。

ここで、私たちの生活で欠くことの出来ない光に関して、距離と時間に触れてみましょう。光は1秒間に30万km、地球の円周に換算すると7周半を進みます。小学校時代からの自転車での走行距離は既に地球の円周の6周ほどになっていますので、更に1.5周ほど走れば、光1秒の距離に達します。もし、これから米寿まで毎年5千km程度を自転車走行すれば、光1秒の進む距離に達します。

この目標の達成には、自身の体調管理は最優先ですが、そのほかに、けがを防ぐために自転車の整備をこまめにする、スマホを操作しながらの走行車や無灯火の走行車からの衝突を回避すること、走行中に不順な天候になった時には、走行を中止すること、等に気遣う必要があります。そして、16年後には、本誌に「光1秒の距離を走破」の記事を投稿したいと思っています。

(筑波大学名誉教授)